

昭和63年度病魚検査概要*

小川 健 ・ 木村 創

海面魚類養殖における適切な病害対策指導を行うため、病魚の診断・検査を実施した。

方 法

持込等診断依頼のあった病魚について、常法により細菌・寄生虫の検査を行い、分離菌はディスク法によって薬剤感受性を調査した。

結 果

月別・魚種別の病魚検査件数を表1に、県内主要養殖地域における魚病分布状況を図1に示した。本年度の検査件数はブリ28件、マダイ10件、ヒラメ12件、トラフグ8件、シマアジ4件、カンパチ2件、その他7件の合計71件であった。ブリでは連鎖球菌症が最も多く16件で、次いで類結節症で合併症をあわせると6件となった。

7月にブリ1年魚に黄だん症が発生し飼育中の6,000尾に約10%の被害が出ている。この病気は四国・九州で2～3年前からよくみられるようになったものであるが、本県では初めてであり、他の小割に伝播することもなく終息している。マダイでは沖出した人工稚魚にビブリオ病、滑走細菌感染症が例年のように発生している。繊毛虫症は、9月から12月にかけて串本・大島・浦神の各漁場で発生がみられ、このうち、串本町の袋漁場で発生したものでマダイ稚魚に約90%の被害が出た。ヒラメではエドワジェラ症が合併症をあわせると8件となり、トラフグでは、ギロダクチルスやトリコディナといった寄生虫性の疾病が多くみられている。シマアジには、ビブリオ病や連鎖球菌症も発生しているが、カリグスの体表寄生が紀南の漁場でよくみられる。現在、淡水浴で対処しているものの、シマアジの取扱いには細心の注意を要し、大変な作業であり、効果的な対策の確立が望まれている。カンパチではノカルディア症が発生しているが、これは、'88年8月に四国から種苗を購入、飼育していたもので、その漁場では過去10年あまり同症の発生はみられておらず、種苗と一緒に持込まれた可能性が高い。

ブリ病魚から分離した *Stueptococcus* sp. および *Pasteurella piscicida* の薬剤感受性を表2、表3に示した。*Streptococcus* sp. ではエンボン酸スピラマイシンを除いた供試薬剤すべてに高い感受性を示した。*P. piscicida* では6、7月の分離株はオレアンドマイシン、スルフモノメトキシリン以外の薬剤に高い感受性を示したが、8月の分離株はアンピシリン、アモキシシリンに耐性を示した。

* 浅海増養殖試験費による。

小川・木村：昭和63年度病魚検査概要

表1 昭和63年度 月別・魚種別病魚検査件数

魚 種	病 名	1988年										1989年			計		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3月				
ブ リ	ビブリオ病			1	1												2
	類結節症			1	3												4
	〃 ・ ビブリオ病				1												1
	連鎖球菌症				1	4	5	2	2			2					16
	〃 ・ 類結節症					1											1
	黄だん症				1												1
	ス レ そ の 他	1															1
小 計		1	2	7	5	6	2	3			2					28	
マ ダイ	ビブリオ病	1															1
	〃 ・ 滑走細菌感染症	1								1							2
	〃 ・ エドワジェラ症	1															1
	滑走細菌感染症										1						1
	エドワジェラ症						1										1
	繊毛虫症(白点病)							1									1
	餌料性疾患														1		1
不 明	1							1								2	
小 計		4					2	1	2					1		10	
ヒ ラ メ	ビブリオ病		3														3
	エドワジェラ症			1	1	1		2				2					7
	〃 ・ 連鎖球菌症					1											1
	不 明													1			1
小 計		3	1	1	2		2				2		1			12	
トラフグ	ギロダクチルス症			1									2	1			4
	〃 ・ トリコディナ症												1				1
	腸 炎 (細菌性?)						2										2
	不 明	1															1
小 計	1		1		2								3	1		8	
シマアジ	ビブリオ病・連鎖球菌症				1												1
	連鎖球菌症							1									1
	カリグス症													1			1
	環境障害(水潮)			1													1
カンパチ	ノカルディア症								1								1
	エラムシ症											1					1
イシダイ オニオコゼ クルマエビ ア ユ クサフグ・イワシ類 マフグ マイワシ	繊毛虫症							1									1
	栄養障害											1					1
	ロイコスリックス・ツリガネムシ症				1												1
	不 明	1															1
	不 明			1													1
	不 明				1												1
	ビブリオ病									1							1
合 計		7	3	6	11	9	10	7	5	2	4	4	3			71	

類結節症の特効薬である両薬剤の耐性菌は、四国、九州各県で増加の傾向にあり、本県でも以前からまれにはあるが出現しており、またオキシリン酸耐性の *P. piscicida* , さらにはアンピシリンおよびオキシリン酸耐性の *P. piscicida* も各県で認められていることから、今後、類結節症治療薬の選定は非常に難しくなり、必らず薬剤感受性テストを行った上で選定する必要がある。

表2 ブリ病魚由来 *Pasteurella piscicida* の薬剤感受性

薬 剤 名	'88年6月				7 月				8 月				計			
	卍	卍	+	-	卍	卍	+	-	卍	卍	+	-	卍	卍	+	-
塩酸 オキシテトラサイクリン	1				2	1							3	1		
塩酸 ドキシサイクリン					1				1				2			
ポリスチレンスルホン酸オレアンドマイシン			1				1									2
アンピシリン	1				3						1		3	1	1	
アモキシシリン					3						1		3		1	
エリスロマイシン	1					2				1					4	
スルフモノメトキシ						1	2				1				1	3
ニフルスチレン酸ナトリウム	1					2			1				2	2		
オキシリン酸	1				3				1				5			

表3 ブリ病魚由来の *Streptococcus* sp. の薬剤感受性

薬 剤 名	'88年8月				9 月				10 月				11 月				計			
	卍	卍	+	-	卍	卍	+	-	卍	卍	+	-	卍	卍	+	-	卍	卍	+	-
塩酸 オキシテトラサイクリン	3				2				1				2				8			
塩酸 ドキシサイクリン					2				1				2				5			
ポリスチレンスルホン酸オレアンドマイシン	3				2								1	1			6	1		
アンピシリン	2				2				1				2				7			
エリスロマイシン	3				2				1				2				7			
アモキシシリン	2								1				1				3	1		
ジョサマイシン	2				2				1				1				6			
エンボン酸スピラマイシン		3				1	1			1				2				1	7	
ニフルスチレン酸ナトリウム	2				2				1				2				6	1		

小川・木村：昭和63年度病魚検査概要

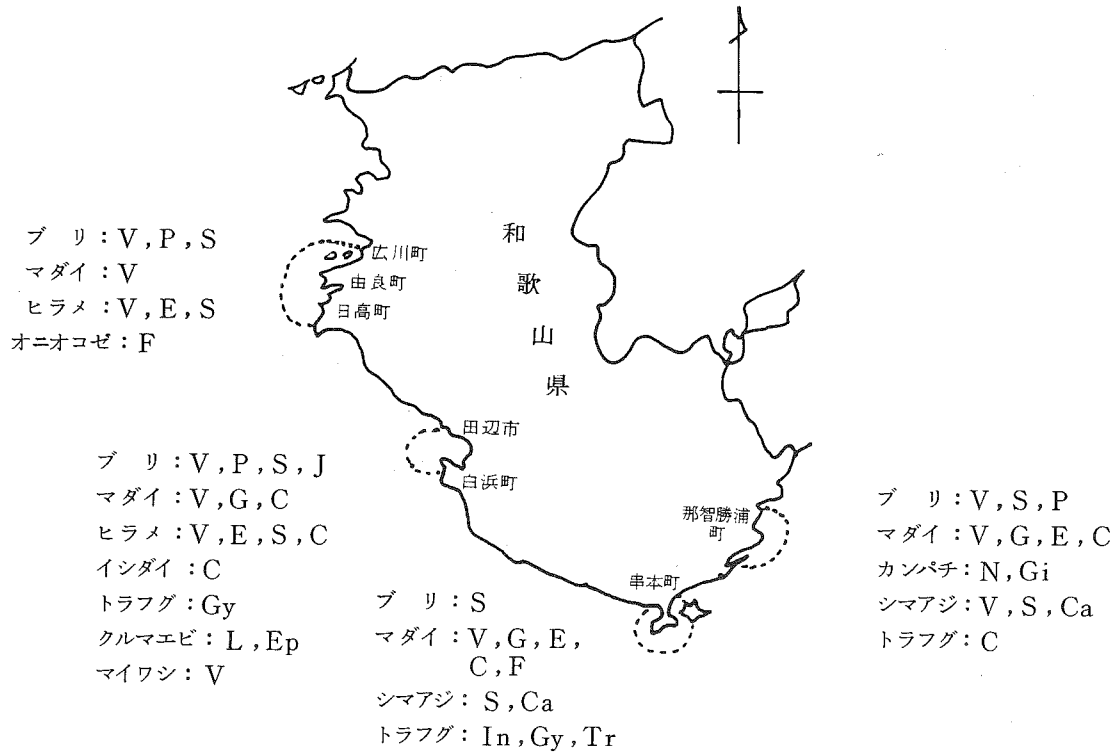


図1 昭和63年度魚病分布図

- | | | |
|--------------|--------------|---------------|
| V: ビブリオ病 | P: 類結節症 | S: 連鎖球菌症 |
| E: エドワジェラ症 | G: 滑走細菌感染症 | N: ノカルディア症 |
| In: 細菌性腸炎 | L: ロイコスリックス症 | Ep: ツリガネムシ症 |
| C: 繊毛虫症(白点病) | Gy: ギロダクチルス症 | Tr: トリコディナ症 |
| Gi: エラムシ症 | Ca: カリグス症 | F: 餌料性(栄養性)疾患 |
| J: 黄だん症 | | |